

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に理念を掲示し、会議の際は声に出して読み上げ、利用者と接するときには優しさや暖かさを意識して業務にあたっています。	管理者と職員へ理念の実践で心掛けている事を伺うと、「職員ペースではなく常に利用者本位に考える」例えば『朝早くお風呂に入りたい!』と言われ「できません!」とすぐ答えるのではなく、どうしたらできるか、他に可能な方法を考える事から行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	現在新型コロナウイルスの影響もあり、地域社会との関わりはないですが、コロナも5類になったことにより地域の活動も通常に戻りつつあるので、近隣の小中学校との交流も図っていきたくと考えています。	地域も事業所も、まだ以前の状態には戻りませんが、新年度に向けて近隣の小中学校との交流や社会福祉協議会へ出向き、ボランティアの依頼を行っていきたくと管理者から話がありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	5年度は、茅野高校の生徒さんの研修を受け入れ、グループホームで1日体験をしていただき、利用者とのふれあいを楽しませていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス対策の為、運営推進会議は書面での報告という形で行っており、話し合いは行われていません。	感染対策の為、運営推進会議は書面開催となっています。事業所自己点検の中でも【事業所の理解者や応援者が増えている。】の項目は【あまり増えていない。】評価となっています。	管理者より、「事業所では運営推進会議の開催場所の課題もあるため、隣接する老健の会議室の活用を含め検討していきたい。」と前向きな意見が伺えました。是非ステップアップした取り組みを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	現在外部との関わりが全くないため、電話で現状の報告を行うのみです。	運営推進会議の委員である、諏訪広域・諏訪市社会福祉協議会・諏訪市なんでも相談員の皆さんへは書面での報告を行っていますが、市町村との関係は電話での報告や連絡にとどまっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	昼間は玄関の鍵を開けていますが、職員が手薄になる時間帯等については一時的に施錠をしています。離脱リスクがあるときはアセスメントを行い、なぜ外に行きたいのかを考えて対応しています。	現在、身体拘束は行われていません。歩行の危険性が高い方は、赤外線センサーを活用し、居室毎の音楽を変えて判断して居室入室をしています。なぜその行為や現象が起こるのか、気づきをアセスメント用紙に記入して検討しています。また、言葉の拘束について研修し、全職員が意識して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法については施設内研修を行い、身体拘束や虐待を未然に防ぐことができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を利用している入居者の方もいらっしゃるのですが、来年度は権利擁護に関する研修を行いたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に面談を行い、その時大まかな説明をし、実際の契約の時にさらに細かい部分まで丁寧に説明し、理解を得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面談時や電話での相談を受け付けており、対応内容やその後の様子など随時伝えています。利用者の要望などは日々の生活の中から聞き出し、反映できるようにしています。	現在、家族面会は玄関のソファで行っていません。事前に電話で連絡をいただき、重複しないように時間調整を行っています。面会時には職員が利用者の様子を伝え、また家族の意見要望を聞いて運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や提案を聞き上司へ報告していますが、その後のトップダウンがなかなか無く、現場に反映するまでに時間がかかっています。	事業所内に意見箱が設置され職員は意見を書いて入れるようにしています。その他に、連絡事項や報告にSNSを活用しており、グループホーム全体・各ユニット毎のグループSNSを設定し、報告連絡相談体制をとっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修や資格取得への体制が整備されておらず、法人全体で、職員が働きがいもてる環境を整備する必要があります。有給休暇取得は取りやすい職場だと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に合わせた研修プログラムがまだ整備されていないため、来年度は個々に研修計画を作成し、実施していきたいと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナにより同業者と交流する機会はありませんが、同一敷地内にある老健と一緒に研修等を行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずは不安の軽減目的として、職員から自己紹介するよう努めています。その後も本人の意見を聞きながら生活のリズムを掴むようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族等には、利用者本人の気持ちや状態、それに対して施設で行えることや新しい試みについて報告し、一緒に環境を考えていくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへの入所相談の際に、ご本人やご家族の希望を聞き、まずは自社グループ施設において必要な支援ができる施設を相談させてもらっています。対応できないときは外部との連携相談を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援と介護の比重において介護の方が多いため、利用者の中には仕事は職員がやるものだと思っている方もいます。暮らしを共に、については実践できていない部分があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とは、ご本人について細目に相談し、一緒に考えるよう努めています。現在は面会に制限がありますが、距離をとった面会や電話を使った対応等に協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は新型コロナウイルスのため、外出や面会に制限をしながらの対応となっています。	感染症の状況を見ながら、行き付けの床屋や美容院等、取り組みを行っています。家族との外出も事前に連絡をいただいています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブル席の配置やレクリエーションに力を入れて、利用者同士が集まれる環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームから退居された方にも相談窓口を開き、相談できる体制を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方について把握しきれていないです。日々の生活の中や今までの暮らしぶり、ご家族からのお話から推測し対応しています。職員本位にならないよう気を配っています。	昔、畑仕事をやっていた利用者、「庭の畑づくりを一緒にやりましょう！」と声掛けしたら、「この年になってやりたくない！」と言われ、生活歴と現在の本人の思いは必ずしも同じではないこと、また、昔を懐かしみ少しでもその利用者が関わっていかれる職員の技能が必要だと職員ヒアリングで伺いました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談の際やその後も、ご家族との面談時に今までどういった生活をしてきたのか伺うようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートを活用しながら一人ひとりの暮らし方について、月2回のユニット会議で現状把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族からは日々の会話の中や面談の際に、家での生活などを聞き取るよう心掛けています。得た情報に関しては24時間シートや生活サポート記録に記録し、ケアプラン作成の際に活用しています。	介護職、看護職、必要時には隣接する老健の理学療法士に相談してアドバイスをもらいながら、介護計画に反映しています。トイレに頻繁に行かれる利用者について、介護と看護で情報共有しアセスメントを行って、医師へ相談して改善でき、その利用者が落ちついた生活を送れている事例も伺いました。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間シートに即した生活サポート記録を使用し、日々のケアの様子やその時の様子などを記録し、見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームならではの特色を活かして、その日その瞬間のニーズをくみ取り、枠に捉われない支援やサービスの提供に心掛けていますが、なかなか実践に繋がっていません。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の情報は収集するよう努めていますが、外出や訪問が難しいため実際には行えていません。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の医師は週に1回往診を行っています。専門性が必要な場合には専門医を紹介し受診しています。法人内の医師はグループホームで対応していますが、外部の病院にはご家族で対応して頂いています。	基本的には、入居時に説明を行い、在宅時のかかりつけ医でも事業所の嘱託医師でも本人・家族の希望で可能となっています。緊急時や家族が行かれない場合には、事業所の看護師が付き添いを行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の様子を看護師に相談し、その都度指示を仰ぐようにしています。判断に困る場合はすぐに主治医へ連絡し、相談できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談室と連携し、入院前の様子や入院中の様子、退院に向けての調整や退院後のフォロー体制を相談しながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所で行えるターミナルケアについて説明を行っていますが、実際に体調不良になった際にも再度説明し、ご家族の意向に沿えない際には他施設を紹介する等のフォローを行っています。	入居時の契約時点で意向を伺っています。体調の変化や介護度が重度化された時には、家族と話し合いの機会を設けて、事業所で対応できる内容や個浴槽での入浴設備等について説明し、利用者本人にとって最適な方法を本人・家族と話し合って意向を伺っています。(管理者ヒアリング)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についてはマニュアルを用意していますが、体調不良のご利用者がある際には、その都度様子を鑑みて対応を伝達しています。応急手当等の訓練については行えていません。実践力に関しては職員で格差があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は年に2回実施。自然災害時の避難訓練は実施できていません。地域の避難場所等は小中学校となるため、法人グループ内への避難を計画しています。	防災訓練は、9月に火災想定訓練を実施し、3月にも予定しています。11月は非常災害時の研修を行い、事業所で地震や水害が発生した場合の職員行動について机上のシミュレーションを行っています。	現在BCP(事業継続計画)については、法人全体として作成している段階です。策定され具体的な取り組み内容が明らかになりましたら、事業所として、全職員が迅速な行動と対応がとれるように具体的な検討を望みます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の今までの人生や性格を考慮し、職員本位のサービスにならないよう努めています。排泄の声掛けなどは本人の耳元で対応し、尊厳の保持に努めています。	利用者を過去・現在・未来へトータルに考え、その方の人生として繋げています。更に今の利用者の強みを導き把握し、利用者職員との協働生活の中で双方が自身の強みを発揮して、また職員同士も尊重し合える組織風土が、一人ひとりを尊重した利用者支援の土台となると考え、事業所のコンセプトとして実践しています。(管理者ヒアリング)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	まずは利用者との関わりの中から希望を聞きだしたり、把握に努めています。また、「いかがですか?」「どういたしましょう?」等本人が決定できる声掛けを行うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの意向に沿って支援を行うよう心掛けていますが、外出が出来ない事で希望に沿えない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を一緒に選んだり、身だしなみを整えてからお部屋を出るように支援しています。現在は、訪問カットの為、2か月に一回、美容師に来てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎回はできていませんが、個々の長所を活かし、皆で協力しながら食事の準備から片付けまでを行っています。	1週間の大まかな献立は職員が作りますが、利用者の”～食べたいよ!”の思いを大事に反映しています。季節のおせちづくりやお花見、誕生会、焼きおにぎり、利用者と一緒に収穫した野菜を、苦労話を味付けにいただきます。毎月発行される『こまくさ便り』には利用者のコメントと一緒に家族へ届きます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量や水分量を記録し、毎日確保できているかを常に視野に入れながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方の口腔ケア習慣に合わせた支援を行っています。週に1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持に努めています。現在歯科往診は行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排尿パターンの把握をし、なるべく失禁しないようトイレへの誘導や自分で付け替えられるようなパットの検討、上げ下げしやすいリハビリパンツや布パンツの検討など、失禁パターンから検討しています。	現在、18名全員の方がトイレ誘導で対応しています。1日の流れを把握する24時間シートを活用したアセスメントを行い、支援の必要な方は、利用者の様子を観察しながら24時間シートに基づき、時間を見計らって誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤に頼らず、食事に食物繊維や乳酸菌を取り入れ、苦痛なく排便が行えるよう医師・看護師と相談しながら行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご本人の入りたい時間を相談し、なるべくそれに沿った対応を心がけています。基本的な曜日は設定していますが、その日の気分で入れるように努めています。	家庭に近い檜の個浴槽が各ユニットにあります。リフト等が無い場合、立位の取れない方の浴槽の出入りは、個浴槽での入浴介護技術を使って2人対応で行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室はいつでも休めるようにしており、リビングでウトウトしていた際には声をかけ誘導しています。畳スペースやソファなども活用し、くつろげる場所を増やすようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の説明書をファイルにして、何の薬を飲んでいて、どのような効果や副作用があるかを見やすいようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者の出来ることをアセスメントし、役割づくりができるよう支援しています。趣味ややってきたこと、嗜好品などを本人や家族に伺いながら用意し、対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	現在施設敷地内の散歩程度となっており、外出の機会を設けることができていません。	事業所全員が班に分かれ、回転寿司へ出かけました。久しぶりの外食は利用者に大好評で、その様子は毎月発行される『こまくさ便り』で家族へ紹介されています。また、コロナ禍で外出のできない中、トランプ・花札・ペラリンドアへ出てお茶会等、職員も一緒に楽しんでゆったり過ごす時間を積極的に増やすよう取り組んでいます。(職員ヒアリング)	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お一人毎財布を用意し、お小遣いを預かり、その中で本人が希望したものを購入しています。現在は一緒に買い物に出られない為、職員が対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の使える方は持参しています。また、本人から希望があればご家族へ電話をし、やり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの設えや季節の花、音楽やテレビの音量などに気を配り、くつろげる環境やみんなで楽しめる環境など、その時々にあわせた環境作りをしています。	明るいリビングのテーブルでは、お仲間と談笑されている方や一人でテレビを見られている方等、思い思いに過ごされています。全体的に和風の色を基調とし、壁面に飾る物や表札に配慮されていますが、トイレやお部屋等利用者に分かりやすい工夫もされています。職員は利用者の耳もとで話をし、清掃も利用者が役割の1つとして取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人でくつろぎたい方や仲のいい方同士と一緒にになれるよう配席に留意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人、家族と相談し、自宅から思い思いの物を持参したり、活動の中で作ったものを飾ったりと、それぞれの部屋作りをしています。	居室面積は広く、多くの部屋に大きなソファと机(炬燵)があり、ベッド以外でもくつろげる状況が見られます。「私の部屋へ来て！」と案内され、愛用の桐の筆筒と使い慣れたそろばんが置かれ「こうやったのよ！」と指でやって見せてくれました。利用者一人ひとりの生活が垣間見られるような環境がありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人が使いやすい事、こだわりのある事などを鑑みて、表示や明るさ、使いやすさを考慮し、環境を変えています。		